

日本経済再生のモデル、TAMAを探る

はばたく西東京新時代

日本経済は明るい兆しが見え始めたものの、中国などアジアの台頭で、日本の製造業は依然として厳しい環境下にある。景気低迷に加え、世界規模の競争が激化し、国内産業の空洞化が叫ばれている。しかし、日本ならではの技術や製品を武器に、世界相手に果敢に挑む企業も目立ち始めている。中でも、東京・多摩地域は高い技術力を持つ企業と特色のある大学、研究機関が集積し、一大産業エリアを形成している。産学連携や産産連携などの取り組みが進み、新たな産業を芽吹かせる動きも盛ん。地域の豊富な資源を結びつけた、TAMAモデル。どういっへき動きが、日本経済再生のカギを握る。

広がる産産・産学連携

技術力ある中小企業集積

東京・西部に広がる多摩地域は26市と3町1村を抱え、全市町村を合わせた人口は約400万人にのぼる。93年から08年までの約10年間に約100万人の人口増加率を誇る。年々居住者が増えていることが分かる。大企業の工場や研究所などが数多く立地し、それを取り巻く形で技術力のある中堅・中小企業が事業拠点を構えている。ベッドタウン化に伴う職住近接ニーズの向上により、ベンチャー企業はもとろんと、民間非営利団体(NPO)が100近く誕生するなどの動きが顕著



産学連携の取り組みが盛んな多摩地域。産学連携の取り組みが盛んな多摩地域。産学連携の取り組みが盛んな多摩地域。

が拠点を構え、世界的な大企業をはじめ、地元企業との連携事業の芽も徐々に現れ始めている。もともと企業と大学が同居する土地柄であることもあり、産学連携が進みやすい土壌が整っている。両者間で研究開発に対する温度差があるなど克服すべき課題は多いものの、大学側では共同研究を受け入れる専門部署を設けるなど、目に見える形で連携事業が盛んになってきている。また、産学連携と比べて短期間でビジネスにつながりやすい取り組みとして注目されているのが、企業同士で協力し製品開発や販路拡大を目指す産産連携といった動き。各自自治体や公的支援機関などが仲介役となり、企業同士のマッチングを推進している。

新産業創出向けさまざまな支援を行うTAMA協会。ベンチャー育成にも熱が入る



けん引役のTAMA協会 支援メニューも充実

産学連携推進を掲げるTAMA協会に対し、企業同士を結びつけ産産連携による新技術創出を指しているのが「サイバールoad八王子」だ。多摩地域の中核都市である八王子市では、八王子駅を中心に、T系ベンチャー企業を呼びこんで地元振興を目指す「サイバールoad八王子構想」を推進している。今年「サイバールoad八王子」の活動が3年目となり、成熟期に入った。

（一）した先端技術地域のけん引役となっているのが、多摩地域を中心に埼玉・群馬・山梨から神奈川・東京都心部をわたる広域多摩地域（TAMA地域）の産業活性化を目指す、首都圏産業活性化協会（名称「TAMA協会」）だ。会員数は約600社とあり、ビジネスチャンスの幅が広がりを見せて

いる。活動も6年目に入り、第二期5年計画がスタートしたばかり。同計画では、中小企業が抱える課題である販路開拓とマーケティングに重点を置いた支援メニューを充実させた。さらに、11月には中小企業の持つ技術力や製品の新規性、将来性などを客観的に評価するサービ

スを始めた。第三者からの評価が欲しいとする中小企業のニーズと、TAMA協会が抱える中小企業診断士や技術士など、構成するTAMAコーディネーターの有効活用が狙い。支援ノウハウが豊富なTAMA協会が行う評価とあって、地域金融機関や地元自治体からも注目が高へ、今後の動きが注目される。

定期的に行っている技術講演会「テックニカルカンファレンス」はタイムリーな技術や動きをテーマに選び、毎回好評を博している。技術講演会をきっかけに、技術力のある中小企業がコンソーシアムを結成し、製品開発を目指す動きが出てきている。国から補助金を受け、実用化に向けた取り組みを一層加速させる勢

(株)オー・エス・ピー、(株)エルウイング2社がTAMA協会 ビジネスプランコンテストに入賞!

社団法人首都圏活性化協会が主催するビジネスプランコンテストは、地域の企業が持つビジネスプランをプレゼンテーションし、その内容の優秀性や、生かされている技術の評価を行ない表彰を行なっているもので、毎年秋に、TAMA協会の「ビジネスプラン・ホップ・ステップ・ジャンププロジェクト」の一環として実施されるものである。

本年度のコンテストは11月10日(月)に、東京都日野市にある富士電気能力開発センターで開催され、今年で4回目を迎えるものです。

このコンテストに応募しプレゼンテーションを行なった企業で、狭山商工会議所の会員である株式会社オー・エス・ピー(本社:東三ツ木 代表取締役:山本弘信氏 発表者:同)が、「ものづくり部門」で、株式会社エルウイング(本社:鶴ヶ島市・狭山市のインキュベーションセンター・SIC21入居者 代表取締役:加納益子氏 発表者:木村隆則氏)が、「IT・サービス部門」でそれぞれ奨励賞を受賞されました。

それぞれのプレゼンターマ、及び評価は以下の通りです。

*株式会社オー・エス・ピー 代表取締役:山本弘信氏

テーマ:

「環境・プロセス計測用有機物質センサー事業化」

評価:本事業は、社会的にも関心のある分野であり、その用途は非常に広範囲に展開することが期待できる。さらに、技術レベルの高さ、経営者の誠実さ、片腕となる支援者のサポート体制からビジネスとしての完成度が高い。

社長の喜びの声「まだまだ未熟な事業プランに対して非常にありがたいアドバイスとコメントをいただいた上、奨励賞を頂きました事に感謝いたします。これを糧として事業の発展と継続に努力していきますので、今後とも宜しく願いいたします。」

PH 一番右が山本社長



*株式会社エルウイング 代表取締役:加納益子氏

テーマ:「広帯域VPN通信事業製造販売事業」

評価:当該技術の実用範囲をセキュリティに限定した場合、すでに他技術により確立されており技術的優位性は低いですが、VPNという新しいネットワーク技術への期待は大きく、国際通信の特性改善の面での市場は大きい。また、ビジネスプランの完成度の高さや製品化に向けたアライアンスなど、ビジネスとしての完成度が高い。

社長の喜びの声「資料送付等遅くなり、大変ご迷惑をおかけしましたが賞まで頂き大変うれしく思っています。今後ともご指導よろしく願います。」

PH 一番左が発表者 木村氏



本事業としてこのコンテストに留まることなく、来年2月に最終ステージであるベンチャーキャピタルのマッチング会が実施されるわけですが、必要に応じてキャピタルからの支援を受け、ビジネスを大きく発展させていきたいと考えております。